

魅力ある 高校づくりに向けて

愛知産業大学三河高等学校

校長 近藤 彰 氏



教育随想



令和3年11月1日

11月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

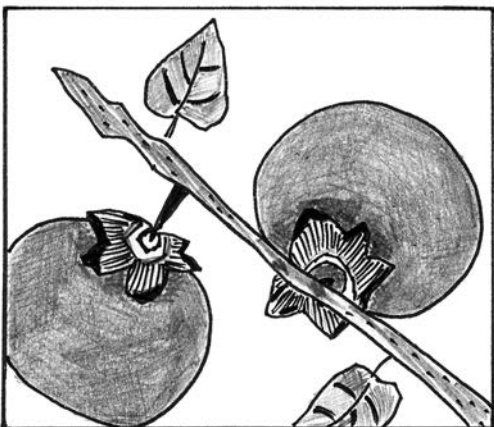
教育随想……………	1
愛知産業大学三河高等学校 校長 近藤 彰 氏	
この人に聞く……………	2
花火師 日本花火推進協力の会 理事 佐野 明正 氏	
羅 針 盤……………	2
家庭科指導員 高橋 崇子	
ふれあい……………	3
竜美丘小学校 教諭 加藤 雅也	
特 集……………	4
未就学児の発達支援の拠点として	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
矢南体操(昭和46年)	
この本を……………	8

高校教育を取り巻く環境は、コロナ禍においてのオンライン授業の導入など、刻々と変化しています。そのような中、昨年十一月に、中教審の新しい時代の高校教育の在り方WGから、各高校の存在意義や社会的役割を明確化するスクールミッションの再定義と、入学から卒業までの教育活動の指針(スクールポリシー)の策定・公表が提言されました。

本校を始めとして、私立高校には『建学の精神』があります。各学校は、それに基づいたブランドデザインにより、教育活動を行っています。かつては、内申による高校の序列化と輪切りのな進路指導が行われ、中学生が進学したい学校や学びたい学習を選択できないこともありました。しかし、現在は、中学生を受け入れる公立・私立の各高校は、多様な興

味・関心・才能を持った子供たちに対応した魅力ある教育活動を展開し、そのニーズに答えています。更に、私立高校は令和四年度、公立高校は令和五年度の入試から「特色入試」が実施され、秀でた能力や意欲ある中学生を受け入れようとしています。

本校は、普通科と実業科(電気・情報処理)を設置していることから、社会から喜ばれる知識・技術を持ち、将来社会に貢献できる人材を育成する理念が、建学の精神に謳われています。その貢献の仕方は、高校教育で学ぶ高い知識を身に付けた者、特定の分野で優れた能力を見出した者、芸能界、スポーツ界、防衛・医療の分野で活躍する多くの卒業生を輩出しています。



各高校が、スクールミッション、魅力を伝え、教育の成果と存在を示すことで、入りたい学校・選ばれる学校・あこがれる学校に成長できると思います。そして、それが未来ある岡崎の子供たちを受け入れる高校の使命であると考えています。

(こんどう あきら)



みんなが楽しめる花火を目ざして

花火師
日本花火推進協力会理事

佐野 明正氏

昭和十二年創業の株式会社若松屋副社長として三代目社長である兄を支えている。大学卒業後、埼玉県秩父市の火薬会社に勤めているときに花火に関する資格を取得し、一年半後、岡崎に戻り入社。より多くの人に花火を楽しんでもらえるよう、岡崎だけでなく、東京にも支社をもち、日本全国で精力的に活動している。

—花火師として、一番の喜びは何ですか—

やはり、みんなが喜んでくれることです。お客さんから歓声があがることがいちばんうれしいです。SNSの会社と協力して花火駅伝を行ったり、花火大会のライブ配信をしたりしたこと、閲覧数は増えました。しかし、会場での反応にはかきません。

—今までの歩みを教えてください—
入社してから五年くらいは、とにかく

くがむしゃらに働きました。三十代になつて仕入れや企画を任せられるようになり、そこから、わが社の花火を全国に届けたい、よい花火を多くの人に知ってほしいという思いがより強くなりました。東京に支社をもつたり、花火推進協力会の理事になったりして、日本全国を走り回るようになりました。今では、岡崎や東京はもちろん、北は北海道から南は九州まで、多くの花火大会やイベントに関わっています。

—どのような出来事が心に残っていますか—

二年前、刈谷の「わんさか祭り」で、市の協力によって、刈谷の特別支援学校と岡崎の聾学校の子供たちと一緒にプログラムをつくったことです。花火大会はとても混雑します。会場に行くことも、会場で見ることも大変で、花火大会に足を運ぶことを躊躇するそうです。そこで、「みんなが楽しめる」をコンセプトに、車いすの子にも楽しんでもらったことが心に残っています。耳の不自由な子が花火を見て感動している姿を見ることができたのは、花火師冥利に尽きます。

—なぜ花火を「みんなが楽しめる」ものにしよと考えましたか—

花火は、目で見て、音を聞き、火薬などのおいを嗅ぎ、振動を体で感じる、これがあったりまえだと思っていました。しかし、様々な人と関わる中で、障がいのある方たちにとっては、それがあたりまえではなく、花火を楽しめないのではないかと考えようになりました。

四、五年前に文化庁の「日本博」に参加する機会がありました。その時、花火という日本文化をより高めるためにはどうしたらよいかを考えました。私のこれまでの経験や思いから、花火をすべての人に開かれた文化にすることだという結論にたどりつきました。

—今後の目標を教えてください—

今年の八月末には、大阪で無観客のオンライン花火大会を行いました。病氣などで現地に足を運ぶことができない子供たちに向けて、アバターロボットを活用するというものです。ロボットは現地にいて、子供の見たいものに合わせて、視線であるカメラを動かすことができます。そこから見えるもの、聞こえるものを、臨場感をもって子供たちに味わってほしいと考えて試みしました。当日は、離れた地から開幕の花火のスイッチを入れてもらい、それを見た子供たちはとても喜んでくれました。

現在、目が不自由な人に、いかに花火を楽しんでもらうかを考えています。点字を使ってストーリーをつくったり、花火を打ち上げたタイミングで振動を起こすといったことも計画しています。これからも「みんなが楽しめる」を広げるため、ぜひ実現させたいです。



氏名 さのあきまさ
生年月日 昭和三十八年八月十五日
出身校 岡崎小学校
南中学校



これからの生活を展望して課題を解決する家庭科の授業

家庭科指導員 高橋 崇子

自立した人間として健康な生活を送るためには、衣食住などの生活を整えることが必要である。そのため、家庭科の授業では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、日常生活に必要な資質や能力を育成することを目ざしている。

A教諭は、中学校三年生で、「離乳食」についての授業を行った。親が子供の成長のために、どのような関わり方をしているかについて、日本と他国を比較しながら見つめることをねらいとした。日本では、その子に合ったものを丁寧に調理して与える。しかし、イギリスは、用意されたものから乳児が自分で選んで食べるスタイルである。この違いを軸に考えを深めていく。学習課題は、「離乳食をどのように進めていくべきか」である。

A教諭は、授業に先立ち、個々の調べ学習の充実を図った。関係団体や保育の現場で働いている人へメールで取材交渉を行い、調べ学習の土



みんなのためにきまりを守る

竜美丘小学校

教諭 加藤 雅也

不満そうな表情を浮かべ、「だって、守りたくないもん」と声をあげたAさん。「きまりを守ろうよ」の声に納得する様子はない。

四月に入学した一年生のAさんは、活発でムードメーカーであるが、友達ともめてしまうことがたびたびあった。Aさんにボールを奪われて、泣いて担任に訴えにきた子もいる。友達と協調する力を伸ばせないか自問していた。

そのころ、体育科で「スポンジフェンシング」の授業を行っていた。Aさんは、とにかく試合に勝ちたいという思いからか、剣を必要以上に振り回したり、相手を挑発したりしていた。その度に、「してはいけないよ」と声をかけたが、返事をするだけで行動を変えることはなかった。そのため、友達からは次第に不満の声が増えてきていた。

そこで体育科の時間を使って「一組ルールづくり」をした。「線からはみ出して戦う子がいたから、注意しよう」「剣を振り回さないようにすると、みんなが安心して楽しめる」など、案の定Aさんの行動に関わる意見が続いた。「みんなが考えたルールを聞いて、どう思いましたか」と全体に問いかけると、最初、Aさんは、友達の意見をじっと聞いていた。そして、しばらく考えた後、「どれも大切なルールだと思う」と発言した。Aさんの思いをみんなに伝えるチャンスだと捉え、「どうして大切だと思ったの」と聞いた。「ルールを守れば、みんなが楽しくできそうだから」と答えた。すると、クラスの子から自然と拍手が起こった。Aさんの顔が、少しほころんでいるように見えた。

以前「守りたくないもん」と言っていたAさんは、ルールを守ること意識し始めた。試合を重ねるごとに、剣を振り回すことが減り、試合の挨拶もするようになってきた。「みんなが楽しくなるように応援しよう」と、クラスの子に提案をすることもあった。Aさんが「みんな」を意識して行動が変わってきたことで、周りの子供たちの見る目も変わってきていることを感じた。

そこで、変わってきたAさんを全体の場で認め、さらによさを伸ばそうと考えた。スポンジフェンシング

の振り返り「一組チャンピオン」の場では、「Aさんが、ルールを守って試合していた」、「Aさんの考えたルールで、楽しくできた」など、Aさんの行いを認める意見が出された。授業後、「どうしてこんなに褒められたと思うかな」と聞くと、「みんなが決めたルールを守ったからかな」と照れながら目を細めた。

ある日の休み時間、「Aさん、フェンシングの勉強はどうだったかな」と聞いてみた。「はじめはだめだったけれど、ルールを守ったら、みんなが褒めてくれてうれしかった」と答えた。

どの子供にも伸びようとする芽がある。その可能性を信じ、とことん子供に向き合い、寄り添う。Aさんとの交流を通して改めて学んだことだ。



台をつくった。Bさんは、保育園の園長さんに取材し、そこで得た情報をもとに、「親が、丁寧につけて与えているから愛情が伝わる」と日本式を支持する考えをもった。

意見交流では、日本とイギリスの離乳食の作り方の良しあしについての意見が続いた。その中盤、「赤ちゃんの個性や意思を尊重することが必要だと思う」というイギリス式の子育ての考え方につながる意見が出された。A教諭は、日本式がよいと考える子供に揺さぶりをかけるために、「大切なのは」作り方ではないという意見が出たけれど、どうか」と問い返した。母から「赤ちゃんは、好き嫌いを何らかの方法で示してくれる。その子の変化を見逃さないことが大切」と聞いていたBさんは、ここで子供の思いにも目を向け始めた。

授業の終末、Bさんは「私は（周りの大人が）やってあげることがすべての愛情だと思っていたけど、赤ちゃんにやらせてあげることも愛情だということが分かった」と振り返った。相手の思いを尊重して関わるのが大切だという新たな見方を構築することができた。

豊かな家庭生活を送るために習得した知識や技能を、日常生活において工夫・活用していくことが望まれる。これまでの常識にとらわれない、これからの生活を展望した授業構想が必要である。

未就学児の発達支援の拠点として



岡崎市こども発達センター「すくも」は、二〇一七年四月に、未就学児の発達支援の拠点機能を果たすために開設された。欠町にある「福祉の村」の施設及び設備の老朽化、福祉環境に伴う利用のニーズの変化や国の法整備によるものである。

三階建ての建物の中に、三つの異なる団体が事業を展開している。

「こども発達相談センター」は、市のこども部が事業を行っている。未就学児の様子や家庭の困り感を丁寧に聞き、対応方法や必要な支援を保護者とともに考える部署である。

「こども発達医療センター」は、市民病院所管である。未就学児の様子から発達評価や診断を行い、発達特性にあった医療支援を行っている。

「こども発達支援センター」は、岡崎市福祉事業団が指定管理している。未就学児の成長や発達状況に合わせた支援計画を作成し、適切な療育を行い、家族や支援者に対してよりよい環境づくりのアドバイスをしている。

三つのセンターが協力して子供たちを支援するとともに、保健・医療・福祉・教育・保育機関が連携し、切れ目ない発達支援体制を整備している。今後も、発達に心配のある未就学児支援の拠点として、その働きが期待されている。



工夫された設備

安全のための設備、子供が落ち着いて過すための設備が整えられている。



▲エレベーター内の様子が分かる外部モニター



▲子供の届かない高さに設置された開閉スイッチ



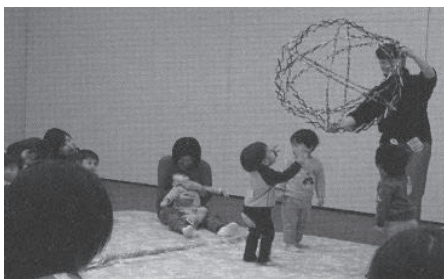
▲身長の違いに合わせた高さの違う二重の手すり

ともに気づき支える
こども発達相談センター



すーりん

こども発達相談センター
杉浦基司様



▲療育的支援事業（にこにこきっず）の様子



▲遊びを通して子供の様子を見る相談室

近年、未就学児の発達障がいに関する相談件数は増加傾向にあります。医療センターを利用している小学校入学予定の子の保護者には、医療センターの情報をもとに「就学児の相談」をしています。保護者の方の困り感に寄り添い、ともに対処方法や必要な支援を考えています。今後も他の2つのセンターのみならず就学後の発達に関する相談窓口となる教育相談センターの「そよかぜ相談」と、連携をより密にしていくことが今後の課題となっています。

ともに向き合い受け止める
こども発達医療センター



くーりん

こども発達医療センター
中村みほ様



▲作業療法を行う部屋



▲子供の遊びの様子を見る診察室

これまで医療的支援が少なかった（知的障がいが目立たなくても発達に心配のある）お子様を対象に、科学的な知見に基づく適切な医療、療育を提供したいと考えています。なるべく早い段階で保護者の方にお子様の特性やより望ましいかわり方への理解を深めていただくお手伝いをするなどの就学前の支援を通じて、就学をはじめとしたよりよい社会参画に寄与することを目指しています。

ともに受け止め育てる
こども発達支援センター



もーりん

こども発達支援センター
山田由紀子様



▲楽器であいさつ、朝の会



▲園庭で戶外遊び

親子（未就園年齢児とその家族）通所では、お子さんはもちろん、家族の方に対するケアにも力を入れ、お子さんと過ごす時間を少しでも楽しんでもらえるように支援しています。単独（通園年齢児）通所では、生活全般の支援や体を使った療育をカリキュラムに沿って実施しています。また、降園後に通所するお子さんに小集団療育を行っています。



●表彰関係

- ◆全国緑の少年団活動発表大会
みどりの奨励賞
国土緑化推進機構理事長賞
額田中
- ◆第四十四回全国育樹祭
全国育樹祭大会会長賞
額田中
- ◆第三十八回NHK杯全国中学校放送コンテスト
テレビ番組部門
参加証
新香山中
ラジオ番組部門
参加証
新香山中
- ◆第五十二回中部日本ジュニア水泳選手権大会
男子小学生の部
五十m自由形
二位(大会新記録)
羽根小 杉本 直樹
- 男子小学生の部
一〇〇m自由形
三位 羽根小 杉本 直樹
- ◆第三十五回東海マーチングコンテスト
中学校パレードコンテスト部門
金賞
南中
- ◆第七十四回中部合唱コンクール
中学生部門 同声合唱の部
銀賞
矢作北中
- ◆第八十八回NHK全国学校音楽コンクール 東海北陸ブロックコンクール
銀賞
三島小
- ◆第二十五回東海小学生バンドフェスティバル
金賞
竜美丘小
- ◆第十回日本学校合奏コンクール2021全国大会
グランドコンテストの部
全国大会出場
城北中
全国大会出場
翔南中
ソロ&アンサンブルコンテスト
クラリネット三重奏の部
全国大会出場
竜海中
- ◆CBCこども音楽コンクール
中学校 合唱部門
優秀賞(文部科学大臣賞選考会出場)
六ツ美北中
- 小学校 合唱部門
優秀賞(文部科学大臣賞選考会出場)
三島小
- ◆第三十三回愛知県マーチング大会
中学校パレードコンテスト部門
金賞(東海大会出場)
南中
愛知県教育委員会賞
南中
朝日新聞社賞
南中
- ◆第二十七回日本管楽合奏コンテスト予選審査会
中学校B部門
最優秀賞(全国大会出場)
竜海中
- ◆第八十八回NHK全国学校音楽コンクール 愛知県コンクール
中学校の部
銅賞
竜海中
- 小学校の部
金賞(東海北陸大会に進出)
三島小
銀賞
山中小
銅賞
梅園小
- ◆第六十五回愛知県統計グラフコンクール
第一部(小学校一〜二年生)
金賞(知事賞)
三島小 野村 春斗
銀賞 三島小 黒谷 侑聖
銀賞 三島小 中西 真優
銅賞 三島小 田中 優衣
銅賞 三島小 足立 憲哉
銅賞 三島小 千野創一朗
- 第二部(小学校三〜四年生)
金賞(知事賞)
三島小 判治 里紗
銀賞 三島小 柘植 佑香
銀賞 三島小 永海 陽向
銅賞 上地小 内田 結
- 第三部(小学校五〜六年生)
金賞(知事賞)
三島小 青山 結衣
- 金賞(知事賞)
三島小 張 学悠
- 金賞(知事賞)
連尺小 長谷 祐真
銀賞 三島小 織田浩太郎
銀賞 三島小 鳥居 咲良
銀賞 三島小 判治 直哉
銅賞 三島小 野田紗恵理
銅賞 三島小 深津 心那
- パソコン統計グラフの部
銀賞 新香山中 庄司 怜生
銅賞 新香山中 佐藤 輝空
銅賞 新香山中 三坪 幸矢



教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00
4	あいこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

第54回 岡崎市中学校新人総合体育大会

種目	性	優勝	第2位	第3位
陸上競技	男	矢作	竜海	六美北
	女	甲山	六美北	矢作
バスケットボール	男	北	甲山	美川
	女	竜海	翔南	葵北
バレーボール	男	矢作	竜海	矢作北
	女	矢作北	美川	新香山
ソフトテニス	男	城北	常磐	六美北
	女	矢作	竜海	河合
卓球	男	矢作北	河合	六美北
	女	甲山	竜海	新香山
剣道	男	矢作	額田	矢作北
	女	甲山	葵	福岡

種目	性	優勝	第2位	第3位
ハンドボール	男	葵	六美北	美川
軟式野球	男(女)	北	新香山	甲山
ソフトボール	女	甲山	矢作北	城北
柔道	男	矢作	甲山	葵北
	女	甲山	矢作	葵北
サッカー	男(女)	竜海	竜南	六美北
	男	幸田北A	額田A	幸田北B
弓道(オープン競技)	男	幸田北A	幸田北B	幸田北C
	女	幸田北A	幸田北B	幸田北C
水泳	男	竜海	甲山	矢作
	女	矢作	甲山	翔南

個人競技(1位記録のみ)

水泳競技

種目	男子			女子		
	氏名	校名	記録	氏名	校名	記録
50m自由形	栗田連太郎	城北	26"22	加藤美月	甲山	28"55
100m自由形	林利晃	福岡	56"74	天野怜華	矢作	1'06"48
200m自由形	佐々木蒼生	矢作	2'17"05	中村心音	矢作	2'15"39
50m平泳ぎ	倉橋吾侑	葵	33"27	岸原くるみ	城北	35"04
100m平泳ぎ	岡田爽良	矢作北	1'11"43	内山朝陽	六美北	1'14"14
50mバタフライ	柏隼矢	竜南	30"27	松本藤乃	矢作	35"04
100mバタフライ	服部羽恭	六美北	1'03"84	秋田莉実	新香山	1'08"75
50m背泳ぎ	高木仁知翔	竜海	32"81	青山陽菜	矢作	33"09
100m背泳ぎ	川崎葉太	福岡	1'01"95	小原みなみ	翔南	1'09"78
200m個人メドレー	太田結万	葵	2'26"30	小西楓	新香山	2'39"54
4×100mR	太田・永田 加藤・安原	甲山	4'06"94	中村・松本 青山・天野	矢作	4'27"46
4×100mメドレーR	加藤・安原 永田・太田	甲山	4'30"61	青山・脇田 中村・天野	矢作	4'56"62

陸上競技

性	種目	氏名	校名	記録	
男	100m	長坂虹	常磐	11"87	
	200m	戸谷瞭太	竜海	24"33	
	400m	川添蓮	岩津	55"19	
	800m	大下蒼生	北	2'13"21	
	1500m	大原慶太	翔南	4'38"46	
	3000m	伊藤颯汰	矢作北	9'36"88	
	110mH	藤田唯央	福岡	16"29	
	女子	4×100mR	小川・川口 小林・戸谷	竜海	47"41
		走幅跳	辻本智希	福岡	5m60
	女	走高跳	城殿翔太郎	新香山	1m55
		砲丸投	坂口湊真	矢作北	8m79
棒高跳		成瀬太地	竜南	2m40	
100m		弓木野杏純	矢作	13"48	
200m		山口桃子	六美北	28"36	
800m		田中有希菜	葵	2'30"27	
1500m		冨澤茉那	甲山	4'54"26	
100mH		平塚玲音	東海	15"26	
子		4×100mR	坪内・鈴木 松島・永田	竜海	53"63
		走幅跳	近藤愛	甲山	4m71
子	走高跳	青山乃愛	南	1m50	
	砲丸投	新開愛純	六美北	10m93	

柔道

男子			女子		
階級	氏名	校名	階級	氏名	校名
軽量級	田中善	六美北	軽量級	新嘉喜梨音	矢作
軽中量級	木下こう	甲山	軽中量級	山根明依	矢作
中量級	岡田修平	福岡	中量級	木村知代	矢作北
重量級	森山諒宇	矢作			

弓道

氏名	校名
男子 尾崎陽哉	幸田北
女子 轟木彩華	幸田北

令和3年度 岡崎市小学校体育大会

競技	優勝	第2位	競技	優勝	第2位	競技	優勝	第2位	第3位			
ソフトボール	男子	北梅園	岩津	バスケットボール	男子	北根石	連尺	水泳	男子	北六名	大樹寺	井田
	女子	東男川	緑丘		男子	南六ツ美西部	竜美丘		南細川	矢作西	井田	
バレーボール	男子	南竜美丘	六ツ美中部	女子	北北野	大樹寺	女子	北福岡	羽根	矢作南	小豆坂	
	女子	梅園	矢作東	女子	東竜美丘	緑丘	男子	南竜美丘	羽根	井田	美合	
サッカー	男子	矢作南	細川	男女	南岡崎	六ツ美西部	女子	大井田	山中	井田	美合	
	女子	北岩津	井田	男女	北細川	井田						
	東藤川	山中			南岡崎	上地						
	南岡崎	六ツ美南部										

第59回 岡崎市小学校陸上競技大会

<男子総合>

1位	大門	33点	2位	山中	32.5点	3位	井田	25点	4位	岡崎	24点
5位	常磐南	23点	6位	美合	22.5点	7位	生平	19.5点	8位	奥殿	19点

<女子総合>

1位	井田	50点	2位	岡崎	34点	3位	美合	30点	4位	恵田	29点
5位	常磐南	20点	6位	根石	17点	7位	生平	16点	8位	秦梨	14点

性	種目	氏名	校名	記録	性	種目	氏名	校名	記録
男	100m	原田未来斗	生平	13"80	女	100m	本庄谷怜	常磐南	14"47
	5年100m	林宏輔	岡崎	14"89		5年100m	浅井唯来	井田	15"71
	80mH	今井朔太郎	美合	15"16		80mH	小田千紘	井田	14"48
	1000m	秋田順哉	大門	3'12"90		1000m	岩崎清緒良	井田	3'25"12
	4×100mR	志賀・真下・富田・小川	山中	58"67		4×100mR	宮崎・小野山・原田・七尾	井田	59"97
子	走幅跳	生田空雅	井田	3m94	子	走幅跳	高橋さくら	井田	3m28
	走高跳	光崎太一	奥殿	1m15		走高跳	形部真菜	岡崎	1m15

・カ
ツ
ト

男
川
小
鈴
木
絵
梨
奈

矢 南 体 操

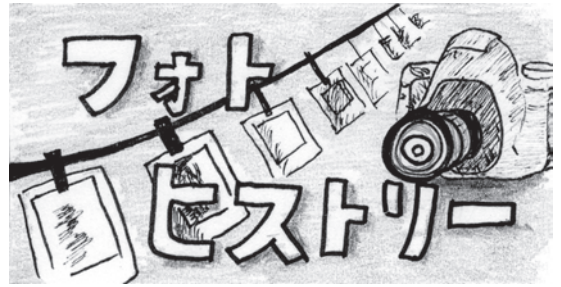
(昭和46年)

写真提供：矢作南小学校

鉄筋三階建校舎の建設が進む中、全校児童が、矢南体操を行っている。業間体育として実施されるようになって間もない時期の一枚である。私服のまま、寸暇を惜しんで行われていたことがうかがえる。

昭和四十六年、「たくましく強じんな心身の育成」をテーマに、市内五校が連携し、研究を開始した。矢南体操は、その一環として、運動の習慣化を目的につくられたものである。その後、約四十年もの間、子供たちに親しまれ、体力向上に寄与してきた。

学校独自の体操は、様々な学校でつくられた。体力づくりの取り組みとしてだけでなく、一つの伝統として大切に引き継がれている。



星のごとく夜空にきらめく花火。会場で見ているような臨場感と感動を、すべての人に味わってほしい。「みんなが楽しめる」方法を佐野氏は常に考えている。

私たちは、授業で子供たちの心を揺さぶっているのだろうか。分かる喜びを通して、学ぶ楽しさを味わわせたい。

と ホ

遠くのを山を見渡すと、葉が鮮やかに色づき、秋の深まりを感じる。その秋の味覚の代表格に柿がある。百年前、正岡子規は、「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」と詠んだ。子規は、好んで柿を口にしたという。修学旅行で法隆寺を訪れた子供たちが、この句を口ずさむ。古都の秋の風物詩である。

つながる心と心。地域で子供を支え、育てる。こども発達センターは、未就学児の発達支援の拠点を担っている。需要が高まり、相談件数は年々増えている。

子供の健やかな成長の支えとなり、保護者に歩む教育が求められている。

霜 月 ツ



▲秋からの贈り物 (細川小)



* 伏見工業伝説 益子 浩一
文藝春秋 ¥710

心に残った一文
花になろうとするな。花を咲かせる土になれ。人のために、仲間のためにやれる人間に、なろうやないか。

全国高校ラグビー選手権を4度制した強豪「伏見工業高校」。ドラマ「スクールウォーズ」のモデル校である。統廃合により学校は別の地に移り、「京都工學院高校」と校名も変えた。しかし、立き虫先生・山口良治氏によって教授された伏見工業スピリッツは、今もなお、人を介して脈々と受け継がれている。

学生時代に心に刻まれた徳、ぐらつかない生き方、受け継がれ火を灯し続ける情熱、そして思いやり。こうした矜持の存在こそが、伏見工業の伝説なのだ。

冒頭の一文を言い換えれば、ラグビーの真骨頂「One for all.All for one.」であろうか。みごとに和語でたとえた言葉にも、伏見工業の矜持が読み取れる。

部活動の指導に携わる若い教師たちに、ぜひ読んでもらいたい一冊である。

* 人間の器 丹羽宇一郎
幻冬舎 ¥840
* 人を育てる道 神渡 良平
致知出版社 ¥1,600
* カクキュー八丁味噌の今昔 早川久右衛門
中部経済新聞社 ¥800
常磐東小学校 近藤 善紀